

遅発性ジスキネジア(Tardive dyskinesia)

・遅発性ジスキネジアは、抗精神病薬などを長期間服用することで起こる不随意運動を特徴とした神経障害である。症状は主に舌や口などの顔面に現れ、重度な場合には嚥下障害や呼吸困難を引き起こす場合もある。

・「統合失調症薬物治療ガイドライン2022」によると、遅発性ジスキネジアへの対処として、抗精神病薬等の原因薬剤を減量、重篤な場合は一旦中止することと明記されており、可能な場合には減薬や中止が行われる。その他の治療選択肢に関して、厚生労働省「重篤副作用疾患別対応マニュアル ジスキネジア 平成21年(令和4年2月改定)」には、遅発性ジスキネジアの不随意運動に対する治療として薬物療法等が記載されているが、本邦で遅発性ジスキネジアの保険適用を有するのはバルベナジン(ジスバル)のみである。

・バルベナジンは、遅発性ジスキネジアの効能・効果を有する薬剤である。ジスバル®カプセル40mgの添付文書には、「遅発性ジスキネジアは抗精神病薬の長期使用に関連して発現するとされているため、原因薬剤の減量又は中止を検討すること。ただし、原因薬剤を減量又は中止した場合に、精神症状の増悪や再発に繋がるおそれがあるため、慎重に判断すること」と記載されており、本剤は原因薬剤の中止や減量による症状の改善が困難である遅発性ジスキネジア患者に使用されると考えられる。

厚生労働省「重篤副作用疾患別対応マニュアル ジスキネジア 平成21年(令和4年2月改定)」における、遅発性ジスキネジアの治療法に関する記載

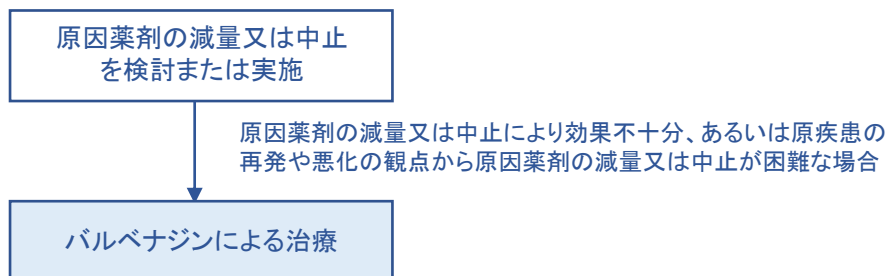
症状出現時の治療

遅発性ジスキネジアに対する治療としては、原因薬剤の中止・他の薬剤への変更・不随意運動の対症治療について考慮する。

・原因薬剤の中止

可能であれば原因薬剤を極力中止する。薬剤中止が早期であるほど遅発性ジスキネジアの改善の可能性が高い。しかし、中止 や減量については原疾患の症状の再発もしくは悪化の可能性を考慮し慎重に検討する必要がある。突然の中断により遅発性ジスキネジアを増悪させることもあるので注意が必要であり数週間から数カ月をかけて緩徐に薬剤を減量する必要がある。(以下略)

図：遅発性ジスキネジアの治療の流れ*



*ジスバル®カプセル40mgの添付文書、および「重篤副作用疾患別対応マニュアル ジスキネジア 平成21年(令和4年2月改定)」を参考に作成